

平成29年度

鵜沼第三小学校 いじめ防止等のための対策に関する基本方針

※HPには、26年度実施内容を加えたものがアップしてあります。

平成 26 年 4 月 1 日策定

ここに定める「鵜沼第三小学校いじめ防止基本方針」は、平成 25 年 6 月 28 日公布、平成 25 年 9 月 28 日に施行された「いじめ防止対策推進法」(以下「法」といいます)の第 13 条を踏まえ、本校におけるいじめ問題等に対する具体的な方針及び対策等を示すものです。

1 いじめの問題に対する基本的な考え方

(1) 定義

法：第 2 条

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(2) 基本認識

教育活動全体を通じて、以下の認識に基づき、いじめの防止等に当たります。

- ・いじめは、人間として絶対に許されない」
- ・「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こり得る」
- ・「いじめは、見ようと思って見ないと見つけにくい」

(3) 学校としての構え

- ・学校は、児童の心身の安全・安心を最優先に、危機感を持って未然防止、早期発見・早期対応並びにいじめ問題への対応を行い、児童を守ります。
- ・全ての教職員が一致協力した組織的な指導体勢により対応します。
- ・「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を、教育活動全体を通して、児童一人一人に徹底します。
- ・「いじめをしない、させない、許さない学級・学校づくり」を進め、児童一人一人を大切にす教職員の意識や日常的な態度を醸成します。
- ・いじめが解消したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行い、保護者と連携を図りながら見届けます。

2 いじめの未然防止のための取組(自己有用感を高める取組)

- #### (1) 魅力ある学級・学校づくり(「分かる・できる授業」の推進、規範意識・主体性・自治力等を育成する指導)

- ・全ての児童が、主体的に活動したり、互いに認め合ったりする中で、「分かった、できた」という達成感を味わえるよう、互いに認め合ったりする中で、「分かった、できた」という達成感を味わえるよう、教科指導を充実します。
- ・全ての児童が大切な学級の一員であり、一人一人が仲間と関わり、自己存在感を味わいながら、望ましい人間関係をつくることができるよう、よさを認め合う学級経営・教科経営を充実します。
- ・いじめや暴力、差別や偏見を見逃さず、学級活動はもとより児童会活動等でも適時取り上げ、児童が主体的に問題解決に取り組むように指導します。
- ・教育活動全体を通じて、全職員が自他の生命のかけがえのなさや人を傷付けることが絶対許されないことなどについて、具体的な場面で繰り返し指導します。
- ・「学級・学校に居場所がある」ということが感じられるような心の成長を支える教育相談に努めます。

(2) 生命や人権を大切にす指導(豊かな心の育成)

- ・様々な人と関わり合っ社会性を育み、他人の心の痛みや生きることの喜び等を理解できるよう、自然や生き物との触れ合いや幅広い世代との交流、ボランティア活動等の心に響く豊かな体験活動を充実します。
- ・誰もが差別や偏見を許さず、互いに思いやりの心をもって関わることのできるための「認識力」「行動力」「自己啓発力」を育む人権教育を充実し、人間尊重の風気がみなぎる学校づくりを進めます。

(3) 全ての教育活動を通した指導(自己指導能力の育成)

- ・教育活動全体を通じて、以下の3点を留意した指導を充実します。
 - ① 児童に自己存在感を与える。
 - ② 共感的な人間関係を育成する。
 - ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する。

(4) インターネットを通じて起こるいじめに対する対策の推進(情報モラル)

- ・スマートフォンや通信型ゲーム機等の取扱いに関する指導の徹底について、教職員及び保護者の間で共通理解を図ります。また、スマートフォンや通信型ゲーム等を介した誹謗中傷への適切な対応に関する啓発や情報モラル教育等についての指導を一層充実します。

3 いじめの早期発見・早期対応

(1) アンケート調査等の実施を含めた的確な情報収集、校内連携体制の充実

- ・いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応ができるよう、日常的な声かけ、定期的なアンケート(記名式と無記名式)の実施等、多様な方法で児童のわずかな変化を多面的に分析し、対応に生かします。
- ・年間3回の県いじめ調査等を全教職員の共通理解の上で実施し、「いじめ未然防止・対策委員会(「4 いじめ未然防止・対策委員会の設置」参照)で状況等を確認し、必要に応じ対策を検討します。

- ・全教職員が、些細なサインも見逃さない、きめ細かい情報交換を日常的に行い、いじめの認知に関する意識を高めるとともに、スクールカウンセラー等の協力体制を整えます。

(2)教育相談の充実

- ・教職員は、受容的かつ共感的な態度で傾聴・受容する姿勢を大切に教育相談を進めます。特に、問題が起きていない時こそ信頼関係が築けるよう、日頃から児童理解に努めます。
- ・問題発生時においては、「大丈夫だろう」と安易に考えず、問題が深刻になる前に早期に対応できるよう、危機意識をもって児童の相談に当たります。
- ・児童の変化に組織的に対応できるようにするため、生徒指導主事を中心に、担任、養護教諭、特別支援担当、スクールカウンセラー等が、それぞれの役割を相互理解した上で協力し、保護者や関係機関等と積極的に連携を図ります。

(3)教職員の研修の充実

- ・年度当初の職員会や夏季休業中の職員研修に加え、必要に応じて適宜職員研修を行い、一人一人の教職員が、早期発見・早期対応、未然防止に取り組むことができるように校内研修を充実します。
- ・いじめの事案があった際には、その事案から生きた教訓を学ぶなど、教職員の研修を行います。

(4)保護者との連携

- ・いじめの事実が確認された際には、いじめた側、いじめを受けた側ともに保護者への報告を行い、謝罪の指導を親身になって行います。その指導の中で、いじめた側の児童にいじめが許されないことを自覚させるとともに、いじめを受けた児童やその保護者の思いを受け止め、いじめる児童が自らの行為を十分に反省する指導を大切にします。いじめの問題がこじれたりすることがないように、保護者の理解や協力を十分に得ながら指導に当たり、児童の今後に向けて一緒になって取り組んでいこうとする前向きな協力関係を築くことを大切にします。

(5)関係機関等との連携

- ・いじめを中心とする生徒指導上の諸問題を学校だけで抱え込まず、その解決のために、教育委員会や民生児童委員、子ども相談センター、警察、学校評議員等とのネットワークを大切に、早期解決に向けた情報連携と行動連携を行い、問題の解決と未然防止を図るように努めます。
- ・インターネット上の誹謗中傷については、保護者の協力を得ながら迅速に事実関係を明らかにするとともに、状況に応じて警察等の関係機関と連携して解決に当たります。

4 いじめ未然防止・対策委員会の設置

・いじめの未然防止、早期発見・早期対応等を実効的かつ組織的に行うため、また、重大事態の調査を行う組織として、以下のように構成される「いじめ防止・対策委員会」を設置します。

【学校職員】 校長 教頭 教務主任 生徒指導主事 当該事案の関係学年主任
関係学級担任 その他必要と認められる教職員 養護教諭 特別支援担当

【学校職員以外】 保護者代表 学校評議員 民生委員 スクールカウンセラー等

5 いじめの未然防止、早期発見・早期対応等の年間計画

月	取り組み内容	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会で「学校いじめ防止基本方針」(以下「方針」)、昨年度の実態等を共通理解 ・ホームページによる「方針」の発信 ※いじめ未然防止・対策委員会は4月当初から随時実施 ・PTA総会で「方針」説明(保護者向け「子どものネット利用」等研修を含む) 	・学級目標づくり
5	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(QU)実施 ・学校評議員会 ・第1回「いじめ未然防止・対策委員会」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし顔合わせ ※以降、なかよし遊びを月1回実施。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談、「なやみアンケート(記名式・無記名式)」実施 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育アンケート」(保護者・児童・職員)実施 ・「かかみはら心のアンケート」実施 ・職員会で1学期いじめ防止対策の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県いじめ調査 ・宝物発表会
8	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修会(ネットいじめも含めた研修会・教育相談研修会) 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる取組経過等の報告 	・運動会
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談、「なやみアンケート(記名式・無記名式)」実施 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひびきあいの日」 ・第二回「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(QU)実施 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育アンケート」(保護者・児童・職員)実施 ・職員会で2学期までのいじめ防止対策の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回県いじめ調査 ・なかよし大会 ・宝物発表会
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による次年度の取組計画 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会 ・第2回「いじめ未然防止・対策委員会」の実施 ・教育相談、「なやみアンケート(記名式・無記名式)」実施 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会で3学期のいじめ防止対策の振り返り ・次年度へ引き継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回県いじめ調査 ・宝物発表会

6 いじめ問題発生時の対応

(1) いじめ問題発生時・発見時の初期対応

【組織対応】

・「いじめ未然防止・対策委員会」で方針を確認し、事実確認や情報収集、保護者との連携等、役割を明確にした組織的な動きをつくります。

【対応の重点】

- ・いじめの兆候を把握したら、速やかに情報共有し、組織的にかつ丁寧に事実確認を行います。
- ・いじめの事実が確認できた、或いは疑いがある場合には、いじめを受けた(疑いがある)児童の気持ちに寄り添い、安全を確保しつつ組織的に情報を収集し、迅速に対応します。
- ・いじめに関する事実が認められた場合、教育委員会に報告するとともに、いじめた側といじめを受けた側の双方の保護者に説明し、家庭と連携しながら児童への指導に当たります。
- ・保護者との連携の下、謝罪の指導を行う中で、いじめた児童が「いじめは許されない」ということを自覚するとともに、いじめを受けた児童やその保護者の思いを受け止め、自らの行為を反省する指導に努めます。
- ・いじめを受けた児童に対しては、保護者と連携しつつ児童を見守り、心のケアまで十分配慮した事後の対応に留意するとともに、二次被害や再発防止に向けた中・長期的な取組を行います。

〔大まかな対応順序〕

- ① いじめの訴え、情報、兆候の察知
- ② 管理職等への報告と対応方針の決定
- ③ 事実関係の丁寧で確実な把握(複数の職員で組織的に、保護者の協力を得ながら、背景も十分聞き取る)
- ④ いじめを受けた側の児童のケア(必要に応じて外部専門家に力を借りる)
- ⑤ いじめた側の児童への指導(背景についても十分踏まえた上で指導する)
- ⑥ 保護者への報告と指導についての協力依頼(いじめた側の児童及び保護者への謝罪を含む)
- ⑦ 関係機関との連携(教育委員会への報告、警察や子どもセンター等との連携)
- ⑧ 経過の見守りと継続的な支援(保護者との連携)

(2) 「重大事態」と判断された時の対応

・いじめにより児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき、いじめにより児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるときについては、以下の対応を行います。

〔主な対応〕

- ・教育委員会へ「第一報」を速やかに報告します。
- ・当該重大事態と同種の事態発生を防止に資するため、教育委員会の指導の下、事実関係を明確にするための調査に当たります。
- ・上記調査を行った場合は、調査結果について、教育委員会へ報告するとともに、いじめを受けた児童及びその保護者に対し、事実関係その他必要な情報を適切に提供します。
- ・児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切な援助を求めます。

7 学校評価における留意事項

- ・いじめを隠ぺいせず、いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、学校評価に置いて、適正に学校の取組を評価します。
- ① いじめの早期発見の取組に関すること
 - ② いじめの再発を防止するための取組に関すること

8 個人情報等の取扱い

○個人調査(アンケート等)について

- ・いじめ問題が重大事態に発展した場合は、重大事態の調査組織においても、アンケート調査等が資料として重要となることから、一定期間保存します。